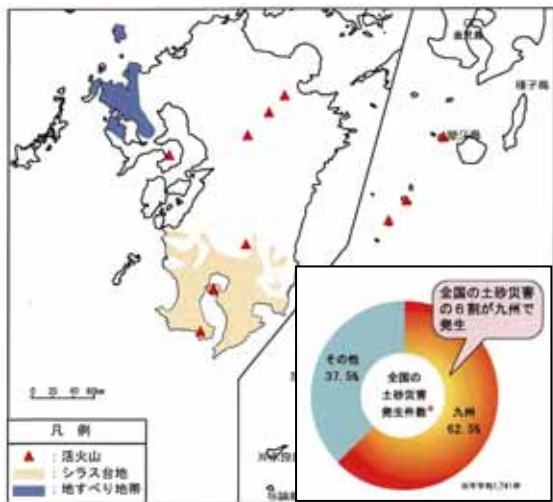


他の検討小委員会の検討状況等について

生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会における検討状況等について

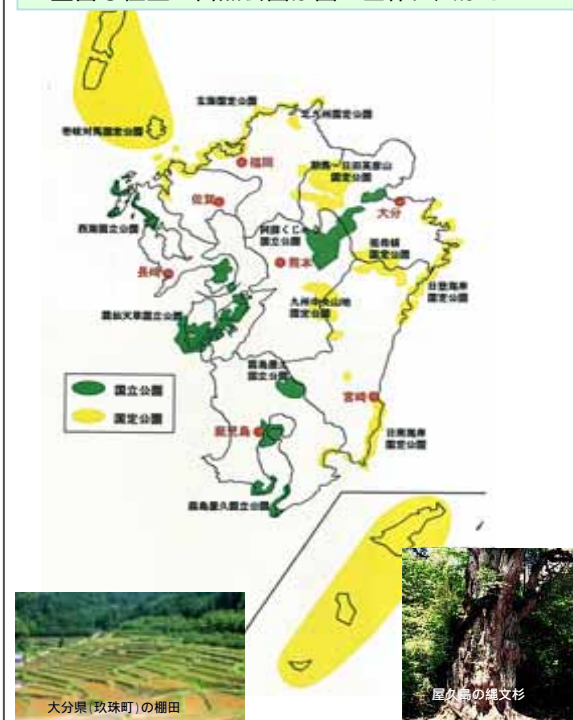
九州圏を取巻く状況について

傾斜地や火山が多く特殊土壌地帯が分布
気候変動による海面上昇や集中豪雨の不安定化
甚大な水害や土砂災害等の被害が多発する傾向



九州圏の状況について

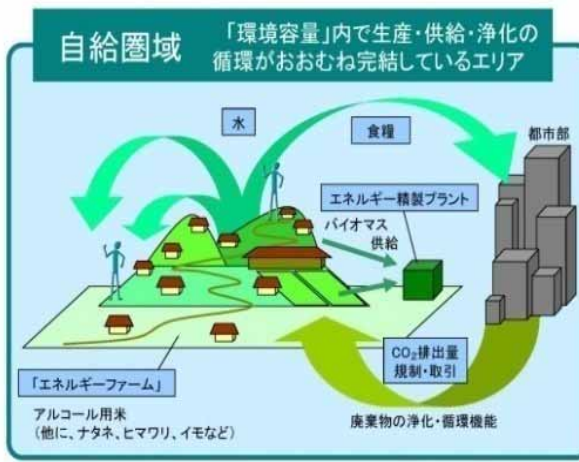
温暖（平均気温20℃）な気候
世界有数の阿蘇カルデラ、世界遺産の屋久島など
豊かで美しい自然
豊富な植生の自然公園が圏土全体に広がる



ゲストスピーカーからの提言

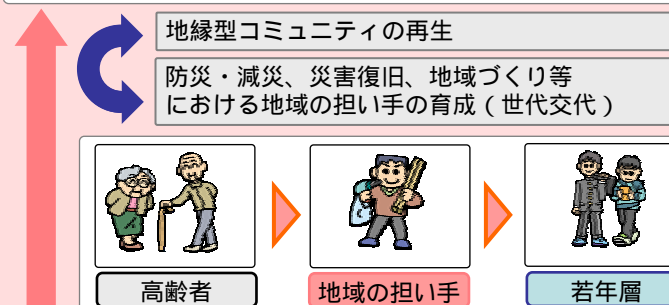
「資源循環に基づく暮らしの再設計と自立圏域の設定」
島根県中山間地域研究センター
主任研究員 笠松 浩樹 氏

- 消費社会の終焉
持続可能な社会システムの構築
自給圏域を目指す
- 中山間地域における発想転換
資源を有効に活用する条件整備
都市住民や企業のチャレンジ



これまでの議論で見えてくる将来イメージ

コミュニティが再生し、地域防災を担う人材が継続的に確保された安全・安心な地域の形成



行政が、防災情報の的確な提供や災害弱者への対応等のセーフティネットを担い安全・安心できる地域を形成

地域社会を営む上で必要な活動や防災対策と環境が両立したバランスの取れた循環型社会の形成



生活の安全と豊かな環境における基本的整理

検討の視点

減災の視点を重視した災害対策の推進：
九州圏は、わが国の中でも特に災害の多い地域であることに鑑み、災害が発生した場合にも被害を最小限に抑える「減災」の視点
自然環境と人間を取巻く社会活動と一体化した圏土構造の形成：
九州圏の豊かな自然環境を継承するため、自然環境だけでなく人を取巻く社会活動を含めた環境、共生を図る視点
九州圏の多様な主体による形成：
多様なライフスタイルを実現するため、多様な主体の参加、参画による個性と魅力ある九州圏の形成を目指す視点

議論の進め方

情勢の転換、新しい価値への対応（第2回議論）

- 災害の要因となる自然外力から守る「防災」から災害が発生した場合にも被害を最小限に抑える「減災」の視点に関する議論
- 豊かな水資源、自然環境、景観等への関心の高まりへの対応に関する議論

九州圏特有の課題への対応（第3回議論）

- 中山間地域、離島半島の高い割合や東アジアと地理的隣接性等の特性を踏まえた課題への対応に関する議論

他の論点は必要に応じて議論

9つの論点

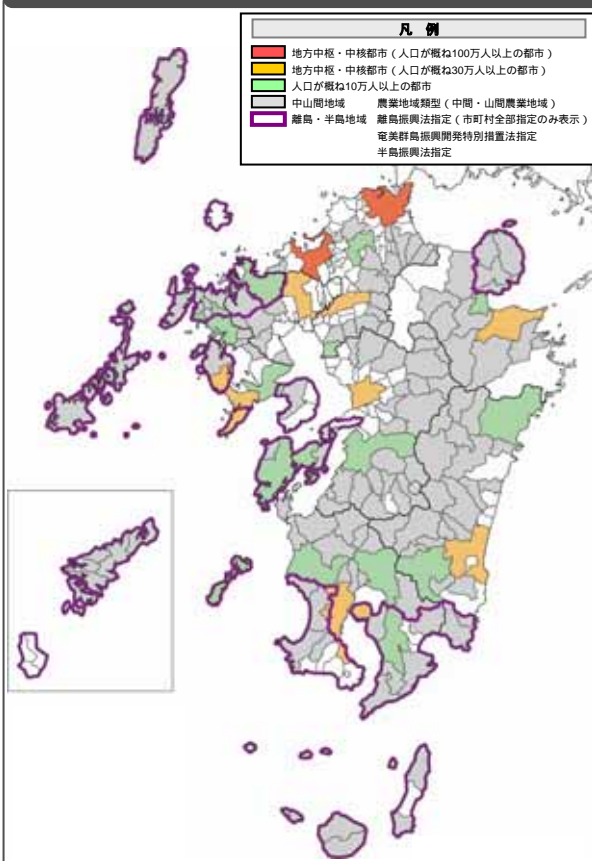
- 論点1 近年の気象変動等に備えたハード対策の推進
- 論点2 減災の観点を重視したソフト対策の推進
- 論点3 安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成
- 論点4 中山間地域、離島等におけるサービスの確保
- 論点5 安全・安心な食を支える九州圏の継承
- 論点6 多様で美しい調和のとれた九州圏の保全と継承
- 論点7 国際的な環境問題への取り組み
- 論点8 流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築
- 論点9 海洋・沿岸域圏の総合的な利用と保全

主な議論の内容

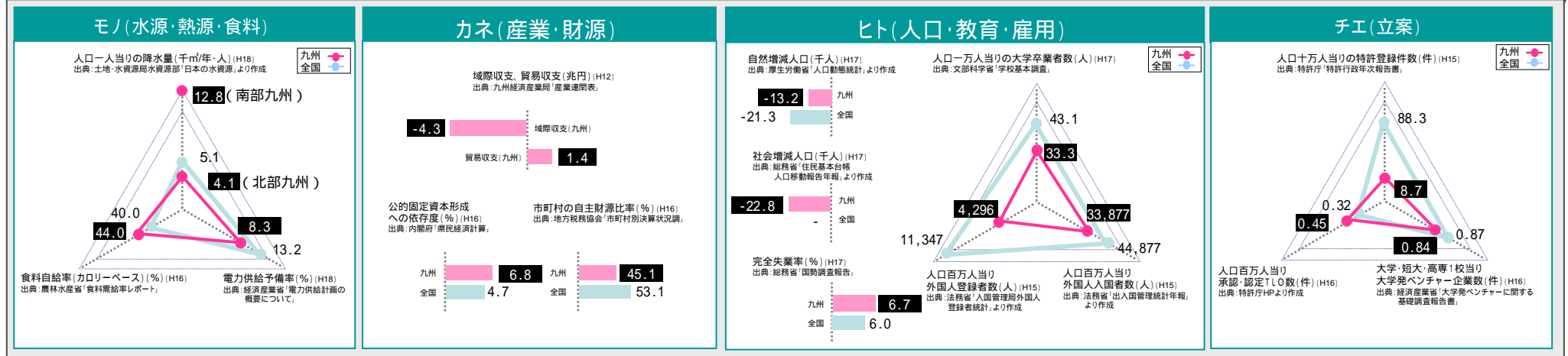
- 少子高齢化社会における災害対策
 - コミュニティ衰退への対応は、災害弱者や建物の危険性の事前把握が重要
 - 地域防災を次世代につなげていくには、若年層の担い手育成が必要不可欠
- 減災に向けた情報の重要性
 - 行政における正確な情報収集、適切な提供が第一
- 迅速な地域復興の観点からの災害復旧
 - 防災・減災だけでなく、被災施設の復旧や漂着物の撤去等の事後処理も重要
- 効率的な物質循環系の構築
 - 森林保全にはバイオマス利用等の有効利用を検討すべき
- 環境、安全等に対する意識の二極化
 - 環境、安全に対して極端に意識が高いか無関心かの二極化が進み問題
 - 災害を発生させない開発レベルや森林等の保全が必要

自立的発展を目指す検討小委員会における検討状況等について

九州圏を取巻く状況について



指標でみる九州圏の自立について

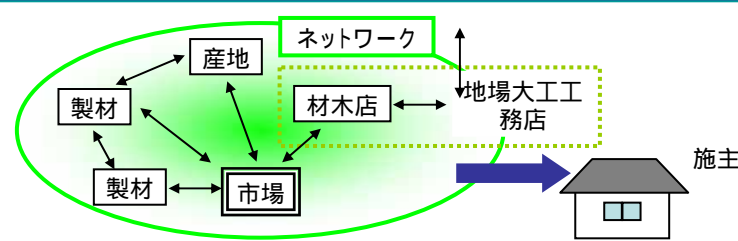


ゲストスピーカーからの提言

「自立した地域社会に向けて～顔の見える産業を考える」
松下生活研究所 代表 松下 修 氏

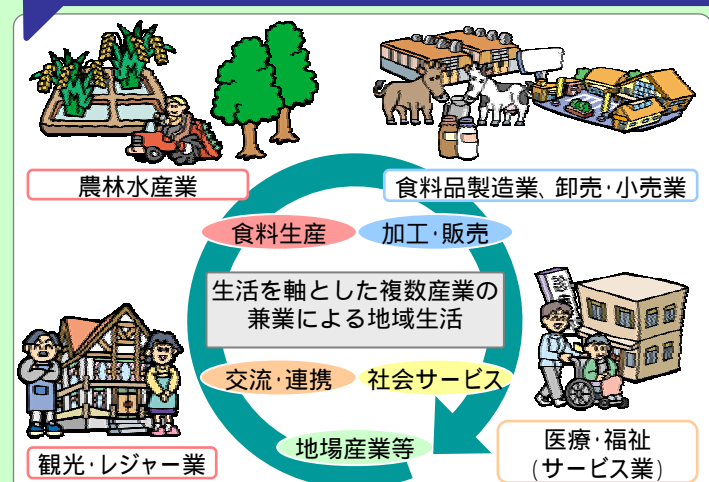
- ・地域内循環を考える
 - ・ソーシャルキャピタルの重要性の認識
 - ・農林産物の商品化だけでなく流通を目指す
- 「顔の見える産業」による地域の自立的発展

顔の見える木材流通と家づくりの構築イメージ

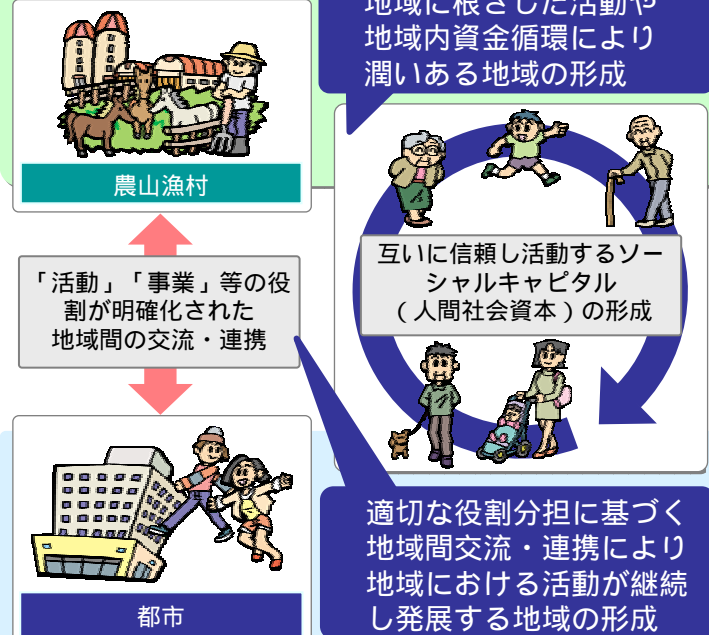


これまでの議論で見えてくる将来イメージ

産業分類に捉われない生活主体の産業による豊かな地域生活の実現



地域に根ざした活動や地域内資金循環により潤いある地域の形成



自立的発展における基本的整理

検討の視点

九州圏の置かれている状況を地域自らが考え解決する地域:
九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自ら考え解決することを前提とし、地域の自助努力、主体的・総力的な取組み等により、地域の活性化を図る視点

自立と連携による持続可能な地域:
それぞれの地域が将来展望を有し、就業機会や社会的諸サービスを継続的に確保することで人の流れや経済の動き等を近づけるとともに、これら地域の互恵により九州圏の総合力が一層活性化するという好循環を生み出す視点

様々なライフスタイルを実現する地域:
多様化する価値観の中で様々な主体が目的を相互に共有して社会参画し、緩やかに連携しながら活動を継続することを促すような、新たな地域経営の形成を図る視点

議論の進め方

自助努力による地域づくり(第2回議論)

・九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自ら考え判断し、持続可能な地域を形成するための議論

自立と連携による地域づくり(第3回議論)

・それぞれの地域が人、モノ、情報等の相互に補完、連携し、持続可能な地域を形成するための議論
他の論点は必要に応じて議論

9つの論点

- 論点1 東アジアにおける九州圏の自立と連携
- 論点2 地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の結集
- 論点3 持続可能で暮らしやすい都市圏の形成
- 論点4 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開
- 論点5 自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携
- 論点6 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択
- 論点7 多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の促進
- 論点8 住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり
- 論点9 地域の子育て力の強化

主な議論の内容

- 地域づくりの取組みは経済が根付きにくい
- ・地域資源を使っていかに地域に資金を残すか
- 中山間地域、中小都市の存亡が課題
- ・地域社会の継続が困難な地域は、自ら考え判断する動きにどう向かわせるか
- 農林水産業の所得は低く高齢化も進む地域を継続させる産業の議論が必要
- ・第2、第3の仕事地域資源を使っていかに成立させていくか
- ・離島を含めた中山間地域等の安定収入を実現するには「個別産業論」から「生活産業論」に転換すべき
- 地域社会の担い手は地域への定着が必要
- ・都市と農山漁村を結びつける取組みは、経済活性化に結びつく「事業」と経済に直接結びつかない「活動」に分ける時期

次回議論